



研究テーマ：日本人一般住民を対象とした血清脂肪酸分画と心拍変動の関連性に関する疫学研究

研究者： 内山田 健次
UCHIYAMADA Kenji
(保健医療学部 助教)

【研究・開発の目的】

本研究は、欧米に比べて魚介類の摂取量が多い食習慣を有する日本人における血中多価不飽和脂肪酸濃度と自律神経系機能との関連性や、それに起因する病態の発症機序への影響を疫学的な手法を用いて検討することを目指す研究である。

【研究・開発のきっかけ】

欧米人を対象とした先行研究では、特に魚介系食材に多く含まれるn-3系多価不飽和脂肪酸（n-3PUFA:n-3 Polyunsaturated Fatty Acids）が心拍変動（Heart Rate Variability:HRV）で評価される自律神経系機能を調整する可能性が報告されているが、本邦での研究は皆無である。

【研究・開発の概要】

我々の研究チーム[※]が行ってきたコホート研究のベースライン調査情報を用いて、日本人一般住民を対象とした血中PUFAと自律神経系機能の関連、及び血中PUFAが自律神経系機能異常を認める疾病発症や病態進展に与える影響に対する関連性について検討する。

※本研究は、大分大学・愛媛大学の研究協力体制のもと実施している。

【研究・開発の特色】

日本人は欧米と比べて明らかに魚介類を摂取している食習慣を有しているため一般住民を対象とした大規模な検証を行えることが有用となる。

【今後の展開】

自律神経系機能が病態の評価として利用されている疾病に対して脂肪酸分画が新たなスクリーニング・予防対策指標になり得るかの検証が期待できる。

【地域・企業へのメッセージ】

主に医療機関での実務に従事してきました。リアルワールドデータを活用した疫学研究などにも関心を持っています。これまでの臨床検査技師としての経験や診療情報管理士の知識を活かし、これからは公衆衛生学・疫学の研鑽を積み、社会貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。